

邦題（摂南大学融合科学研究所 論文集 TeX テンプレート）¹ (英題) TeX Template of Report on Interdisciplinary Research in Setsunan University

摂南太郎 ²	摂南大学理工学部 基礎理工学機構
矢川 華	摂南大学理工学部 基礎理工学機構
SETSUNAN, Taro	Institute for Fundamental Sciences, Faculty of Science and Engineering, Setsunan University
YAGAWA, Hana	Institute for Fundamental Sciences, Faculty of Science and Engineering, Setsunan University

Abstract

This paper describes research activities in Setsunan University. This paper describes research activities in Setsunan University. This paper describes research activities in Setsunan University.

キーワード：学際融合研究，学術研究，工学発展，摂南大学，芸術，作成要領

Keywords：interdisciplinary science, scientific research, technological development, Setsunan University, Art, Guideline

1. 序文

摂南大学融合科学研究所論文集の書式にできる限り近い形で作成した TeX によるテンプレートです。正確な書式については、Word ファイルの「摂南大学融合研論文集原稿作成要領」に従ってください。

Mac の場合、プリアンブルの

```
\usepackage[noalphabet]{pxchfon}
```

```
\setminchofont[0]{msmincho.ttc} （明朝体を MS 明朝に変更）
```

```
\setgothicfont[0]{msgothic.ttc} （ゴシック体を MS ゴシックに変更）
```

でエラーを起こす可能性が高いので、これをコメントアウトして使用することを推奨します。環境によっては、Windows でもエラーを起こすかもしれないので、適宜、コメントアウトして使用してください。（このファイルでは既にコメントアウトしています。）

¹ 【原稿受付】 年 月 日，【掲載決定】 年 月 日

² 【主著者連絡先】 摂南太郎 摂南大学，教授 e-mail : taro-setsu@setsunan.ac.jp

〒 572-8508 大阪府寝屋川市池田中町 17-8，摂南大学理工学部 基礎理工学機構

2. 使い方

2-1 章番号と節番号について

作成要領では、章番号や節番号の書き方に指示があります。このテンプレートでは、`\section{～}`、`\subsection{～}`などの通常の TeX コマンドで、指定されている書式で番号を出力できるようにしました。

2-2 ページ数について

ページ数は表示せずに原稿を作成することになっているため、予め`\pagestyle{empty}`コマンドでページ数が出ないように設定されています。

2-3 参考文献について

文献番号は丸括弧 () で括り、本文の引用箇所には上付き添字で番号を付すこととなっています。このため、次のコマンドを用意しました。

`\citex{キー}`：上付き括弧で文献番号を出力します。

`\citexx{キー}`：上付きでない括弧で文献番号を出力します。

例：上付き添え字の丸括弧 ⁽¹⁾⁽²⁾

上付きでない丸括弧 (1)(2)

括弧のない文献番号 1, 2

尚、通常の`\cite{キー}`を用いると、括弧のない文献番号を出力します。`\citex{キー}`と`\citexx{キー}`を用いる代わりに、例えば「参考文献 (1) に書かれている ⁽²⁾」は以下のよう
に書けます。

参考文献 (`\cite{キー}`) に書かれている`\textsuperscript{(\cite{キー})}`

2-4 bst ファイルについて (!!! bibtex を使わない場合は不要で、無くても動く !!!)

別フォルダにて、融合科学研究所論文集用に

「yugokenA.bst(アルファベット順)」 「yugokenB.bst(引用順)」

の2種類の bst ファイルを作成しました。これは無くても動きます。この2つは TeX に標準搭載されている `acm.bst` を編集して作成したものです。(`ieeetr.bst` と `unsrt.bst` から一部のコードを移植しています)

尚、変更したのは、bibtex ファイルの Entrytype が `@Article` になっているものだけで、`@Book` などのエントリーは融合研の書式に対応しておらず、`acm.bst` の形式のまま出力されます。

また、文献は英文タイトルのを想定しています。融合研の書式では邦文タイトルは鉤括弧「～」で括るよう指示がありますので、適宜、bbl ファイルをコピペした後に編集するなどしてください。

参考文献

- (1) Murata, S., and Setsunan, T., “Experimental study on ……”, *International Journal of Statistics*, 30-1(2015), pp.741–749.
- (2) 摂南太郎, 矢川華, 「寝屋川の工業」, 工業会誌, 30-3 (2001), pp. 130-140.